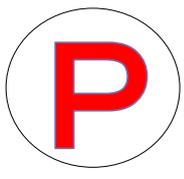


令和4年度PDCAサイクル(がんサポートチーム)

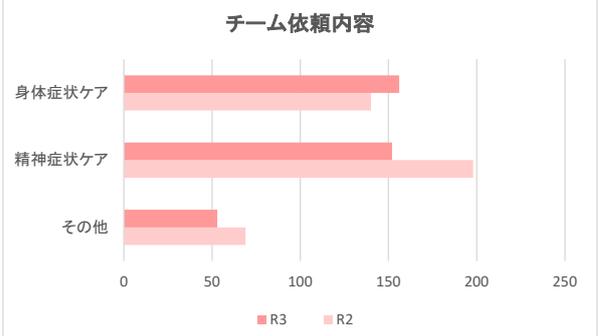


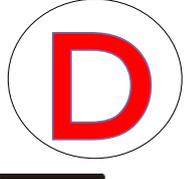
P

【目 標】 がんサポートチーム(以下、CST)活動や研修会開催を通して、院内全体の緩和ケアの充実を図る

- 依頼は増加傾向にあり、主として身体症状と精神症状へのケアが必要とされている
- がんの苦痛症状に対する緩和ケアの知識を強化する必要がある
- その他、家族ケアや意思決定支援等の依頼あり、個別性の高いケアの提供も求められている

チーム依頼内容





D

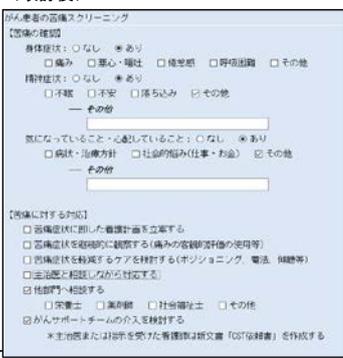
① 入院がん患者に実施する苦痛スクリーニングの内容や方法の見直し

<改訂前>

がん患者の苦痛スクリーニング											
R3				R4				R5			
項目	実施	実施	実施	項目	実施	実施	実施	項目	実施	実施	実施
身体症状	○なし	○あり	○あり	身体症状	○なし	○あり	○あり	身体症状	○なし	○あり	○あり
精神症状	○なし	○あり	○あり	精神症状	○なし	○あり	○あり	精神症状	○なし	○あり	○あり
その他	○なし	○あり	○あり	その他	○なし	○あり	○あり	その他	○なし	○あり	○あり

苦痛症状の確認だけでなく
対応手段のチェック欄を設けた

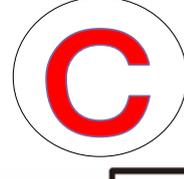
<改訂後>



② CSTが直接介入したがん患者の苦痛症状の変化を苦痛評価尺度(STAS-J)で評価

③ 院内外の医療従事者に対して、がんや緩和ケアに関する研修を実施

④ CSTの介入依頼元や多職種に対して積極的に連携や情報共有を行う機会を設けた

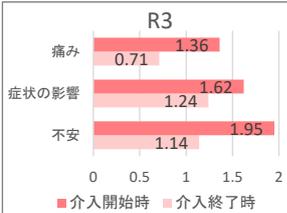


C

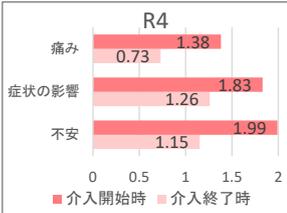
① 苦痛スクリーニングの見直し
→ がん患者の苦痛に対する意識が高まり
ケアの質向上やタイムリーなCST介入につながった

② 直接介入による苦痛症状の変化
...身体/精神症状ともに苦痛症状は低下(昨年度と同程度)
→ CSTの直接介入は苦痛症状の緩和につながっている

R3



R4

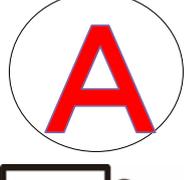


③ 研修会の実施

研修会名	開催日	参加者
緩和ケア研修会(PEACE)	2022/7/9	23名
オンコロジーセミナー「がんところ」 (がん研有明病院 腫瘍精神科 清水研先生)	2022/11/11	86名 (うち院外17名)
がん看護研修1(疼痛マネジメント)	2022/11/14	37名
がん看護リンクナースへの研修	2022/7/25	11名

④ 他部署・多職種との連携

- 個別事例の状況に応じて、依頼元や病棟スタッフと適宜カンファレンスを実施した
- 緩和ケアカンサボードに研修医が参加
→ 緩和ケアに関する知識・情報を共有できた
- 内科(東10病棟)カンファレンスへの参加



A

【来年度に向けた取り組み】

- CST直接介入に新たな評価指標を取り入れ異なる観点から介入効果を検討する
- 依頼元や関係多職種とのカンファレンスや効果的な情報共有を引き続き行う
- 院内外の多職種に向けた研修を継続する

改善

